

職員室から・・・

2009. 2. 3

加藤 由美子

○新聞記事から

「幼児期に親と一緒に好きな童謡などを歌う機会が少ないと、小学生になってから“あまりがんばれない”と感じる割合が増える傾向があることが、厚生労働省研究班が実施した調査でわかった。安梅教授は「一緒に歌うことは、親子の楽しいかかわりの象徴。こうしたふれあいが子どもの発達にいい影響を与えることがあらためて示された」と話している。同研究班は全国98箇所の保育園に在籍した子どもたちと保護者を継続的に調査しており、今回幼児期の成長環境がその後の心身の健康にどんな影響を与えるのかを調査。

小学1～5年の児童271人「体がだるい」などの心身の不調がないかを尋ね保育園在籍当事に保護者を対象に行った調査との関連を調べた。その結果幼児期に保護者が「家庭で子どもと遊ぶ機会がめったにない」としていた児童が「あまり頑張れない」と答える割合は、月に1回でも遊ぶ機会があった子の3倍以上であった。別の分析方法で「頑張れない」とこととの関連が強い答えを調べると「一緒に歌を歌う機会がほとんどない」であることが分かった。」(産経新聞、)

この記事は、幼児期に歌に限らず“親子の時間”を多く持った子が、大きくなってから心身の不調が少なく、前向きに生きることができるということを指しているのでしょうね

高い山で滑落事故にあって重症となった人が、もうだめだと思ったときに、お母さんが歌ってくれた子守唄がうかんできて、その歌のリズムに引っ張られるようにして人が通る道まで体を引きずって行って助かった、ということを知ったことがあります。乳幼児期にお母さんが刻んでくれた思い出が人を支えていくということを思うとき、

子どもたちと保護者の皆様のことが思い浮かびます。

幼稚園にお迎えにいらした保護者の方が、お子さんのスキーウェアが泥まみれなのをみて、「いいことだ」と言ってくださっていました。また、お迎え後に長い時間園庭で雪遊びをして、びしょびしょになってもまだ遊びたいといっている男の子二人に、保護者の方が「もうたくさん遊んだから帰ろうね」とやさしく一生懸命繰り返し語りかけていらっしゃいました。お迎えのあと

園庭でお子さんと友だちも入って鬼ごっこをしている保護者の方がいらっしゃいました。こんな風に、園庭で一生懸命遊んでいるお子さんを、寒い中見守り続ける保護者の方の姿を見るたびに、大きくなってからがんばることができる力をもらっているな～といつも嬉しくなって、何回も同じことを……と思いながらつい書きたくなってしまいます。

○ ある卒園児さんから聞いたことですが、体育の時間に、ネットを片付けていたときのこと先生が「君はどこ幼稚園だった？」と聞いたそうです。「青陵幼稚園です。」といったら「ほ～いい幼稚園だな」といつてくださったそうです。ネットをたたむときに、幼稚園で布をたたんでいたときのたたみ方をしていたのだそうです。お友だちと端と端をもって合わせて、また端を持ってあわせて……と丁寧に布をたたむ方法が身について、その子の行動に表れていたようです。物事を手順を踏まえて合理的に行う方法を身に付けていたことを思うと、保育者がきちんとした仕事をしていなければならないと思いました。

○節分の鬼

節分の鬼の役は、“お父さんがしないほうがいい”という内容のテレビ番組がありましたね。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが……………。

その番組では・・・4～5歳の子どもがいる家庭で、

子どもに、一番強いと思う人を絵に描いてと行って、絵を描いてもらいます。すると子どもたちはおすもうさんやウルトラマン等々を描いていました。

しばらくするとその家に怖い鬼が来て……………子どもは豆をぶつけようとするけれど、怖くて泣き出してしまっ、お父さんの後ろに隠れるのです。

そこでお父さんの出番！「おには～そと～」と豆をぶつけて鬼を追い払います。さて、そのあとで、もう一度、一番強い人を絵に描いてといひますと、子どもたちはみな“お父さん”を描いたのです。鬼をやっつけたお父さんは一番強い人になるという具合！ お父さんがヒーローになれるよい機会なのだそうです。笑えました。面白い実験でした。

現代は、こんはふうにお父さんの出番を作らなければならない時代？かもしれませぬね。

ひょっとしたら、お父さんが鬼になると、鬼をやっつけてしまうお母さんが強い人になってしまうかも……………だから我が家は……………なんだ！

